

第2節 小学校教育

第1項 教育機会

1. 現状と課題

(1) 児童数

小学校教育は、小学校と盲学校、聾学校及び養護学校の小学部で行われている。このうち盲学校、聾学校及び養護学校の小学部については、「第5節 養護教育」において取り上げることとし、ここでは小学校の在学者についての状況を見る。

本県における小学校の児童数は、過疎化の進行と出生率の低下により逐年減少し、昭和41年度において246,364人であった児童数が昭和51年度において182,282人となっている。

また、児童数の減少状況を見ると、昭和42年度は昭和41年度より9,166人の減、昭和46年度は昭和45年度より7,657人の減、昭和51年度は昭和50年度より1,453人の減となっている（図2-2-1）。

これより、本県における児童数の減少傾向は鈍化しつつあると想定される。

一方、全国における児童数の推移状況を見ると、昭和33年度の児童数を最高とし、以後児童数は昭和43年度まで減少を続け、昭和44年度から再び増加し、それ以後においても増加を続けている（「我が国の教育水準」(昭50)）。

以上から、本県における児童数は、全国よりほぼ10年おくれ、昭和53年度に増加に転ずるものと想定される。

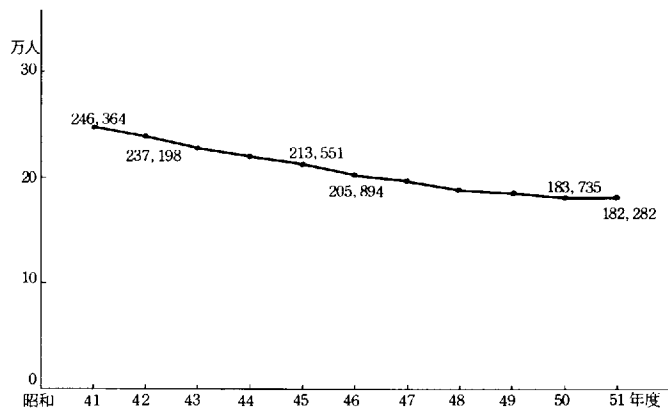
従って、今後は、県全体としての児童数の増加傾向を踏まえ、教育諸条件の整備を更に推進し、教育水準の向上に努める必要がある。

(2) 地域別児童数

地域別児童数の推移を昭和41年度から昭和51年度までにおいてみると、県中、県南、会津、南会津、相双の各地域においては、児童数が逐年減少しており、県北、いわき地域の児童数は、昭和51年度において減少から増加に転じている（図2-2-2）。

また、地域別に児童数の増減状況を昭和42年度、昭和46年度、昭和51年度における前年度児童数に対する増減児童数の割合の比較からみると、県北地域においては、児童数の減少傾向が急速に鈍化し、昭和51年度に増加の状況を示している。

図2-2-1 児童数の推移



注：「学校統計要覧」(昭41～昭51)による。